

【22】研究倫理について

正しい規範意識をもって、探究活動に臨みましょう。以下のことに気を付けてください。

1 研究における不正行為

- ねつ造 … 実在しないデータや研究結果等を作成したり発表したりすること。
- 改ざん … 研究資料や用いた実験機器、研究の過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果などを加工すること。
- 盗用 … 他者のアイデア、分析方法、データ、研究結果、論文や用語を、当該者の了解もしくは適切な表示なく流用すること。
- その他
 - 二重投稿 … ある雑誌に投稿した現行を、採否が決まらないうちに、別の雑誌に投稿すること。
 - 不適切なオーサーシップ … 著作者や共著者、実験やデータ分析に関わった人の記載を行わず、一人で行ったかのように発表すること。

2 研究発表時に不正行為とならないように気をつけること

- 自分の所属する研究機関の倫理を確認しているか。
- 発表する機関の倫理規定や論文投稿規定を確認しているか。
- 発表を行う上で、調査や実験に再現性があることを確認しているか。
- 生データ（実際に測定した数値などのデータ）、使った試料、実験ノートの保存・管理ができているか。
- 共同研究者がいる場合には、それぞれが関わったところを確認し、その内容について共同の責任を負うことに合意をとれているか。
- 投稿にあたり、二重投稿規定に抵触していないことを確認しているか。
- 既に発表されている著作物や表現・内容について、引用であることを示しているか。

3 発表機関における規定の例

- 具体的な商品名を記載したり、特定できる写真を掲載したりしない。
- 著作権などの権利について、発表開催者が迷惑にならないよう事前に許可を得ておく。
- オンラインで発表する場合は個人名を載せない。名札をつけない。

～先行研究の調査を行う意義は？（研究倫理の視点で考えると…）～

自身の研究成果を示すことができる

+

すでに挙げられている研究成果を侵害しない 盜用と疑われない

4 Introductionにおける引用

Introductionにおける引用の仕方

直接引用の場合

○○（20xx）によれば、「△△という現象を引き起こす原因是□□であることが示唆された」とある。

→このように作成者（発行年）を明示、「」（かぎ括弧）を用いて引用部分がわかるようにし、自身が作成している文章と紛れないように配慮する。「」内は一字一句変えない。

間接引用の場合

○○（20xx）では、△△の原因是□□であると考察を行っている。

→直接引用と同様に作成者（発行年）を明示、自身で要約した内容であるため「」（かぎ括弧）は不要。

要約により、引用元の本来の趣旨を変えてしまわないように注意。

○Introductionに直接引用もしくは間接引用を行った資料は、Reference（引用文献）として記す。

○引用はしなかったが、参考となった資料はBibliography（参考文献）として記す。

Introduction 下書きの情報を整理しながら、本文（文章）を作成する。

○○という現象がある。この現象は「～～～」と定義づけられている⁽¹⁾。過去の調査では○○について「～～」という傾向が示されており⁽²⁾、～というところが課題として挙げられている。関連する研究として、△△（20XX）による「～～～～」ということが明らかになり⁽³⁾、さらに□□（20XY）では「～～」ということが示唆された⁽⁴⁾。現在では、関連する企業などで（～～）という取組も行っている⁽⁵⁾。そこで本研究では「○○」という点に注目し「～～～（リサーチクエスチョン）～～～」について明らかにすることとした。具体的には、○○することで■■という結果が得られると予想を立て、調査（もしくは実験）を行うこととした。

References

- (1) △△△△(2001) ××辞典 第n版 p.10
- (2) ○○省(2022) ○○統計 <https://www.■■.go.jp/> 2022年12月23日
- (3) □□○○(20XY) ○○と☆☆の関連性 ○○学会 1(3) 40-43

各自の調査を元にして、
正しい書き方で記していく。

Bibliography

- 多摩太郎 (2022) Merakiにおける研究テーマ選択の傾向と分析 Meraki 科学研究 10(2) 130-145
- 多摩花子 著、宿河原次郎 編 (2021) メラーキクラスによる探究の日々 初版 メラーキ出版 pp.24-25
- 立△△高等学校(2022). 国際性プログラム <https://www.■■.jp/▲▲-h/ssh/kokusaisei.html> 2023年1月17日